

# いただいた尊い生命に分け隔てなし 痛み知り歴史を語り次世代へ

(二〇二五年度 近畿同朋運動推進協議会入選標語)

2025年1月に発見された彗星、「レモン彗星」が、10月から11月にかけて見られました。報道では、彗星のように見られたとありました。

子どもの頃、星を眺めることがよくありました。月面着陸や1970年の万博での「月の石」を見たこともあり、宇宙への憧れのようなものを感じて一時期、星の観察をしていたことがあります。

当時から考えると、宇宙探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」、「リュウグウ」の砂を持ち帰ってきたり、今回の大阪関西万博では「火星の石(火星由来の隕石)」が日本館では展示されたりと宇宙探査はどんどん進んでいるように感じます。

宇宙の広がりを見ると、そこにあるすべての生命が分け隔てなく尊いということに気づかされます。そして同時に、人類が歩んできた歴史には「痛み」があり、その「痛み」を語り継ぎ、次の世代に伝えることの大切さも感じることができません。

未踏の地に踏み出していこうとする思いは、人間の良いところのように思われます。しかし、人間の興味はやがて汚い欲にまみれていきます。過度な宇宙開発による宇宙ゴミの問題、宇宙空間の軍事目的での利用などは、新たな構造的差別をつくりだしていきます。

山や川の向こうを知りたいとの思いは、支配したいとの思いとなり、すべてを支配したいというどうしようもない欲望に変化していきます。

仏教は、人間が煩惱にまみれた愚かな存在だと指摘します。  
そのことを阿弥陀さまは深く悲しまれました。

阿弥陀さまは私たちを、遙か昔よりずっと今日ただ今に至るまで、汚れきってひとかけらとして清らかな心を持つことが出来ない。曲がりきってひとつとしてまこと心を持たざる者と見抜かれました。その深い悲しみの心は、やがて願いとなって私に告げられます。「安心せよ。そのまま救うぞ」というよび声、「南無阿弥陀仏」のお念仏が私の口からこぼれてくださる。救われなければ溺れてしまう私。ですから阿弥陀さまは、繰り返し私に語りかけてくださっています。